

公共交通体系を考える



テーマは・・・

「使える」体系づくり

大山町内には、さまざまな公共交通機関や体の不自由な方などの移動を支援するための制度などがあります。これらの公共交通機関は、私達の生活を支える基盤となる重要な体系（仕組み）を形づくっています。

近年、少子化にともなう人口の減少や高齢化、あるいはマイカーの普及などにより、利用が減少、またそれに伴う運行コストの増加といった問題が生じ、既存の公共交通体系を現状のまま維持することが難しくなっています。

今月号から数回、大山町の公共交通について考えるシリーズをお届けします。

さて今回は、公共交通体系を考える上で、どのような交通機関や制度があるか探ってみましょう！

まずは知ろう！

町内の公共交通機関

鉄道



Railway

大山町と他の市町村をつなぐ動脈的な性格を持つJR山陰本線に、大山口・名和・御来屋・下市・中山口の5駅があります。

日交バス

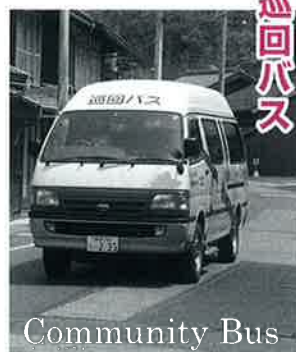


Bus

大山口駅前から草谷・佐摩・大山寺などへの町内路線と米子駅への路線、また、大山寺から観光道路経由で米子駅への路線があります。

いずれも、毛細血管のような性格を持っています。

巡回バス



Community Bus

中山地区と名和地区には巡回バスが走っています。料金は200円均一で、主に広域農道より日本海側を東西に巡回しています。

名和・中山間は前谷で乗り継ぐことができます。

タクシー



Taxi

御来屋駅前に日興タクシー・下市駅前に中山タクシーの2社があります。

ダイヤや路線がないので、自宅から目的地へ利用者が一番自由に移動することができます。

鉄道やバスと異なり、個人ごとの都合（デマンド）による輸送という特徴があります。